

### (3) 楽しいなぞ解き文字……会意文字

#### 会意文字の見方・教え方

象形と指示が、いちばん古い文字の作り方ですが、これでは、物と事は表せても、物事の状態や動作について説明することができません。たとえば、「どうする」とか、「どんなだ」というようなことは、象形文字や指示文字では、なかなか表すことができません。

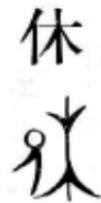
そこで、二つ、またはそれ以上の文字を組み合わせ、別の新しい意味を表すことを考え出しました。二つ以上の意味を合わせるというので、これを「会意文字」といいます。この字はかなりあります。

会意文字は、二つ以上の部品の組み合わせでできていますから、まず、分解できたら、その意味を考え、その文の筋と関連させて、「どんな意味だろうな。」と、考えてみることです。

部品と文の筋と、この二本の糸をたぐると、たいていは知らない漢字でも、かなり意味がはっきりつかめるようになるものなのです。

#### しぜんに漢字を読ませる

右の字は、人と木でできていますが、人と木はいろいろの意味で関係づけることができます。「人が木を切る」「た



き木を採る」「道具を作る」などという想像もできるかもしれませんが。それはそれでよいのです。

ただ、それだけではほんとうの解決はつきません。その字が、文の中で、どのように使われているかを見るのです。

「まり子さんは、つかれたので、木の下に行って休みました」とあったら、すぐに正しい読み方だわかるでしょう。

これを逆にいうと、ある漢字を教えるときにはこの方法を使え、ということです。

このような、未知の漢字がしぜんに読めるような文章の中で、「漢字を読ませる」のです。そして、子どもがしぜんに読んだあとで、その字の成り立ちを、こんなふうに話してやるのです。

「暑い夏の日が、かんかん照り付けるところで、お百姓ひやくしやうさんが仕事をしていました。暑いし、それにつかれたので、休みたくなりました。そこで、お百姓さんは、木の陰にはいって、一休みしました。人が木のわきに行くとな、ほら、これが「やすむ」という字なんだよ。」と、休という字を書いてみせるのです。

#### いろいろな会意文字

● 木がたくさんある「はやし」  
林四年リはやし

森一年 シン  
もり 木がもつとたくさんある「もり」

炎 エン  
ほのお 火と火で「ほのお」

比五年 ヒ  
くらべる  人と人と「くらべる」こと

並 へイ  
ならぶ  
なみ  
ならびに  人がふたり仲よく「ならぶ」

明二年 メイ  
ミョウ  
あかるい あきらか  
あける 日も月も「明るい」

鳴三年 メイ  
なる  
なく 鳥と口とで鳥が「なく」

島三年 トウ  
しま 「しま」は、海の鳥の住むところなので、鳥と山で表わしました。

男二年 ダン  
ナン  
おとこ 田んぼで力を出して働く人は「おとこ」です。

東二年 トウ  
ひがし 木の向こうに日が見える方向が、「ひがし」です。

西二年 セイ  
サイ  
にし  小鳥が巣にかえるのは日が「にし」に沈むころです。

信四年 シン しんよう 信用(まこと)は人の言(ことば)で、いちばんたいせつなことです。

言四年 ゲン  
ゴン  
いうこと  口から「ことば」の出るようすを表した字です、「いう」こと。

動三年 ドウ  
うごく 重い物でも力を加えると、「うごく」

### 日本で作られた漢字

このようなやり方で日本で作った漢字もかなりあります。

働四年 ドウ  
はたらく 人が仕事のために動くのが、「はたらく」ことです。

峠 とうげ 山の上り下りの境めが、「とうげ」です。

畑三年 はたけ  
はた 雑木を火で焼いて、切り開いた田を「はたけ」という。

込 こむ 歩いて(込)中に入り「こむ」こと。

このほか、辻(十字路)、辻(すべ)、凪(風が止む)、凪(木を吹き枯らす風=木枯らし)、榊(神さまにささげる木)、鰯(弱い魚)、鱈(肉が雪のように白い魚)など、日本で作られた字もなかなか多くありますが、当用漢字表には、はいっていません。